

576

In Kyoto, the leaves turn red in November.

- turn+C「(変化して)C になる」
 - My brother turned 20.(私の兄は 20 歳になった。)
-

577-1 Please keep quiet while I'm on the phone.

- keep+C「ずっと C のままである」
 - be on the phone「電話に出ている」
-

577-2 My mother takes yoga classes to relax and stay [keep] fit.

- stay fit
 - keep fit
- 「健康を保つ」— この fit は形容詞で「健康な」の意味。
-

578 The number of foreign tourists remains high.

- remain+C「C のままである」
- ※ 主語が単数名詞 the number なので、動詞は -s を付けて remains とする。
- remain seated「座ったままだ」
 - remain unconscious「意識がないままだ」
-

579 A baby is lying asleep in its mother's arms.

- lie+C「C の状態で横たわる[置いてある]」— 活用は lie—lay—lain—lying
- ※ 性別が不明のお赤ちゃんは, it / its / itself で受ける。
-

580 My dream of studying abroad will come true next year.

- come true「夢や望みが実現する」=「本当(true)になる(come)」
 - one's dream of doing「～する夢」
-

581 The news turned out to be fake.

- turn out (to be)+C
 - prove (to be)+C「C(である)とわかる, C(である)と判明する」
- ※ C には形容詞・分詞・名詞がくる。

582~590 では、他動詞の後に目的語が 2 つ続く SVOO(第 4 文型)が用いられている。この文型では、1 つ目の目的語が「人」=間接目的語(IO)、2 つ目の目的語が「物・事柄」=直接目的語(DO)になるのが基本である。多くの場合、SVOO は SVO+to / for に書き換え可能であり、「誰に・何を」という関係を意識すると理解しやすい。

582 I wish you good luck on your exam.

□ 582~590 は他動詞(V)の後に 2 つの目的語(O)がくる SVOO(第 4 文型)の文。⇒ File63, p.246

※ 1 つめの目的語(人)を間接目的語(IO=Indirect Object),
2 つめの目的語(物)を直接目的語(DO=Direct Object)と呼ぶ。

□ wish A B「A に B を祈る」= wish B to A

583 The company offered him a job in the marketing department.

□ offer A B「A に B を与える／差し出す」= offer B to A

□ department「部門」①「部」②「(大学の)学科」

584 Mr. Crouch allowed us only ten minutes to answer all the questions in the quiz.

□ allow A B「A に B(お金・時間など)を与える」= allow B to A

□ quiz ①「クイズ」②「小テスト」

allow の語法

allow は「許す」「与える」を表す動詞だが、文型・形によって意味の焦点が変わる点が重要である。基本イメージは、制限を取り除き、可能性や余地を残すことであり、そこから「許可」「可能にする」「付与」「考慮する」といった意味が派生する。

まず、allow A to V の形は、次の二つの意味をもつ。

① 許可する(permission)

「A(人)に～することを許す」という意味で、規則・権限・立場に基づく許可を表す。

The teacher allowed the students to leave early.

のように、「してもよいと認める」というニュアンスが中心である。

② 可能にする(make possible)

この場合の allow は、「結果として～できるようにする」という意味になり、必ずしも人が許可するという意識は強くない。

This new system allows users to access the data easily.

のように、条件・仕組み・環境が整った結果、行為が可能になることを表す。この意味では enable A to V とほぼ同じ働きをする。

allow A to V は

「許可する」／「可能にする」の両方を表せるが、enable A to V は「可能にする」意味に特化し、許可の意味は含まない。

次に、allow A B の形では意味が変わり、「A(人)に B(時間・お金・回数など)を与える」という意味になる。

Mr. Crouch allowed us only ten minutes to answer the questions.
のように、ここでは「行為を許す」というよりも、時間・量・機会を割り当てる／与えるという意味が中心になる。B には、数量として制限できる名詞が来るのが特徴である。

次に、allow for A の形は、人に何かを許す意味ではなく、「A を考慮に入れる」／「A の可能性を見込む」という意味になる。

You should allow for delays.

のように、「遅れが起こる可能性をあらかじめ計算に入れておく」という発想を表す。この用法では、allow は「許可」ではなく、状況判断・見積もりに関わる意味で使われている点に注意が必要である。

最後に、be allowed to V は allow A to V の受動態で、「～することが許されている」という意味になる。法律・校則・規則など、一般的・客観的な許可を述べる時に用いられる。

- allow A to V
 - ① A に～することを許す
 - ② A が～できるようにする(= enable A to V)
- allow A B
A に B(時間・お金・回数など)を与える
- allow for A
A を考慮に入れる／A の可能性を見込む
- be allowed to V
～することが許されている

585 He charged me 2,000 yen to fix my bike tire.

charge A B「A に B(金額)を請求する」

fix「～を修理する」= repair

charge の意味と語法

charge は「請求する」「責任を負わせる」「非難する」など複数の意味をもつ動詞だが、中心となるイメージは「(責任・費用・義務などを)相手に負わせる」ことである。文脈によって「お金」「義務」「罪」といった内容が変わる点に注意が必要である。

最も基本的な用法は、金額を請求する意味である。

charge A B は「A(人)に B(金額)を請求する」という意味になり、
He charged me 2,000 yen. のように用いられる。このとき B には必ず 金額
が来る。

同じ内容は charge B to A の形にも書き換え可能である。

また、charge A for B の形で、「B(サービス・商品)の代金として A に請求する」
という言い方もよく使われる。

They charged me for the repair. のように、「何に対する請求か」を明示する
場合に用いられる。

次に、責任・役割を負わせる意味の用法がある。charge A with B は「A に B
(任務・責任)を課す」という意味で、*He was charged with the task.* のように
使われる。この用法では with が重要で、「B を背負わせる」というニュアンスを表
す。

さらに、罪・違反で告発する意味もある。この場合も charge A with B の形を取
り、*He was charged with theft.* は「彼は窃盗の罪で告発された」という意味に
なる。ニュースや法律関係の文脈で頻出する用法である。

なお、charge には名詞用法もあり、「料金」「請求額」「責任」「非難」などを表すが、
動詞用法と意味のつながりは共通している。

- charge A B:A に B(金額)を請求する
- charge B to A:B を A に請求する
- charge A for B:B の代金として A に請求する
- charge A with B:①A に B(責任・任務)を負わせる②A を B(罪)で告
発する

586 The heavy snow last week caused us a lot of trouble.

- cause A B「A に B(良くないこと)をもたらす」= cause B for A
 cause A a lot of trouble「A にたいへん迷惑をかける」

587 Could you spare me a moment [minute]? I have a quick question.

- spare A B「A に B(物事・時間)を割く」= spare B for A
 a moment / a minute「短時間」

spare と save の語法

spare と save はどちらも「省く」「節約する」と訳されやすいが、英語としての語
感はかなり異なる。spare は「本来かかるはずだった負担・犠牲・被害を免れさせ

る」感覚、save は「資源・時間・お金を使わずに残す／減らさない」感覚が核になっている。

spare の語感と語法

spare の中心イメージは、「相手にかかるはずだった痛み・苦勞・消耗を和らげる／避けさせる」という人間的・感情的な発想である。

そのため、spare A B では「A(人)に B(時間・手間・苦勞)を割く／免れさせる」という意味になり、B には 負担として感じられるものが来る。

Could you spare me a moment?は、「(忙しい中だが)少し時間を割いてくれませんか」という、相手への配慮を含んだ表現である。

また、spare A from B は「A を B(苦痛・被害・危険)から免れさせる」という意味になり、The accident spared him serious injury.のように、「最悪の事態は避けられた」というニュアンスを表す。

さらに、spare B for A では「A のために B を取っておく／回す」という意味になり、I can spare some time for you.は、「他を削ってでも、あなたのために時間を用意する」という語感をもつ。

👉 spare は「気持ち・配慮・犠牲」の匂いがある動詞である。

save の語感と語法

一方、save の中心イメージは、「無駄を出さずに残す」「資源を減らさずに保つ」という合理的・結果重視の発想である。

save A B は「A の B(時間・お金・労力)を省く／節約する」という意味になり、Online shopping can save us time and money.のように、「効率がよく、コストが減る」ことを客観的に述べる表現になる。

また、save A from B は「A を B(危険・失敗・被害)から救う」という意味になり、This helmet saved him from serious injury.のように、「悪い結果を回避できた」という結果に焦点が当たる。

さらに、save up (for A) は「(将来の目的のために)蓄える」という意味で、I'm saving up for a new bike.のように、計画的・目的志向的な行為を表す。

👉 save は「効率・結果・残高」の匂いがある動詞である。

588 It takes me 50 minutes to get to school.

take A B「A に B(時間)がかかる」

it takes (A)+B(時間)+to do「(A が)～するのに B(時間)がかかる」

589-1 His reckless driving cost him his life.

cost A B「A に B(費用)がかかる, A に B(犠牲など)を払わせる」

※ この問題文は無生物主語構文。⇒ p.214

reckless driving「無謀運転」— reckless「無謀な, 向こう見ずな」

589-2 It costs (me) a lot of money to attend the music festival.

It costs (A)+B(費用)+to do「(A が)~するのに B(費用)がかかる」

attend a festival「祭りに参加する」

590 Online shopping can save us [you] time and money.

save A B「A の B(手間・時間・お金)を省く」

※ この問題文は無生物(online shopping)が主語の無生物主語構文。⇒ p.214

save [spare] A the trouble of doing「A が~する手間を省く」

591 Let me explain the rules of Shogi to you.

explain A to B「A を B に説明する」

※ explain は SVOO の形をとらない動詞。⇒ File64

File 64 SVOO の形をとらない動詞

say something to her(何かを彼女に言う)

× say her something

explain the rules to her(規則を彼女に説明する)

× explain her the rules

submit a paper to her(レポートを彼女に提出する)

× submit her a paper

suggest a plan to her(計画を彼女に提案する)

× suggest her a plan

introduce him to my mother(彼を母に紹介する)

× introduce him my mother

inform him of [about] the fact(彼に事実を知らせる)

× inform him the fact

File 63 SVOO の形をとる動詞

wish A B「A に B を祈る」

- allow A B「A に B(お金・時間など)を与える」
- offer A B「A に B を与える」
- spare A B「A に B(物事・時間)を割く」
- lend A B「A に B を貸す」
- charge A B「A に B(金額)を請求する」
- leave A B「A に B を残す」
- cause A B「A に B(良くないこと)をもたらす」
- take A B「A に B(時間)がかかる」
- save A B「A の B(手間・時間・お金)を省く」
- cost A B①「A に B(費用)がかかる」②「A に B(犠牲など)を払わせる」
- owe A B①「A に B(お金など)を借りている」②「A に B(恩義など)を負っている」
- envy A B「A の B をうらやましく思う」

wish / allow / offer / spare / lend / charge / leave / cause / take / save / cost / owe / envy はいずれも S+V+A(人)+B(物・事) の形を取り、第 4 文型(SVOO)を作る動詞である。ただし、同じ形でも B に来る内容によって意味の性質と語感が大きく異なる 点に注意が必要である。

- wish A B は「A に B を祈る」という意味で、B には *good luck / happiness / success* などの 実体のない抽象的な願いが来る。A に何かを実際に与えるわけではなく、心情・祈りを向ける動詞である。
- allow A B は「A に B(お金・時間など)を与える」という意味になり、B には *time / money / opportunity* など、数量として制限できる資源が来る。「許す」というより、一定の枠内で割り当てる・付与する語感が強い。
- offer A B は「A に B を与える／差し出す」で、B には *help / advice / a job* などが来る。ここでは 相手が受け取るかどうかは未確定で、「申し出る」というニュアンスを含む点が特徴である。
- spare A B は「A に B(物事・時間・手間)を割く」という意味で、B には *time / effort / trouble* など、本来なら消費されるはずの負担が来る。相手を思いやり、苦勞を免れさせる人間的な語感をもつ。
- lend A B は「A に B を貸す」で、B には *money / books / tools* など返却が前提の物が来る。金銭のやり取りはなく、好意・親切として一時的に貸すことを表す。
- charge A B は「A に B(金額)を請求する」という意味で、B は必ず 金額になる。費用や責任を 相手に負わせるという、公式的でやや強い語感をもつ。
- leave A B は「A に B を残す」で、B には *a message / money /*

inheritance などが来る。意図的に後に残す・手元に置いておくという発想が中心である。

- *cause* A B は「A に B(良くないこと)をもたらす」という意味で、B には *trouble / damage / pain* など 望ましくない結果が来る。結果重視で、無生物主語とも相性がよい。
- *take* A B は「A に B(時間・労力・手間)がかかる」という意味で、B には *time / effort / energy* などが来る。A は経験者(人)であり、行為に必要なコストとして消費されるものに焦点がある。
- *save* A B は「A の B(手間・時間・お金)を省く」という意味で、B には *time / money / effort* が来る。無駄を減らし、結果として残すという合理的・効率重視の語感である。
- *cost* A B は、①「A に B(費用)がかかる」②「A に B(犠牲・損失)を払わせる」という二つの意味をもつ。B には *money / life / health* などが来て、失われた代価に焦点が当たる。無生物主語でよく使われる。
- *owe* A B は、①「A に B(お金)を借りている」②「A に B(恩義・感謝)を負っている」という意味をもち、B は 返すべきもの・感じるべきものである。①は物理的、②は精神的な負い目を表す。
- *envy* A B は「A の B をうらやましく思う」で、B には *success / talent / lifestyle* などが来る。A に何かを与える動詞ではなく、A がもつ B に感情を向ける点が他と異なる。

592 Smartphones make our lives easier in many ways.

- 592~594 は他動詞(V)の後に目的語(O)と補語(C)がくる SVOC(第5文型)の文。「S は O を C にする」の意味。⇒ File65
- *make* A B「A を B の状態にする」— SVOC
- *make* A easy「A を簡単にする」
- *in many ways*「多くの点で」

593 Don't leave the window(s) open when you go out.

- *leave* A B「A を B の状態にしておく」— SVOC
- ※ この問題文の *open* は形容詞で「開いた」の意味。

594 You'll find the science museum very interesting.

- *find* A B「A が B だとわかる」— SVOC ⇒ Grasp26
- *find out* (that) …「…ということがわかる」

595-1 A little exercise will do you [us] good.

S do A B = S do B to A「S は A(人など)に B(利益・損害など)を与える」

S do A good「S は A の役に立つ」= S do good to A

good は「利益, 役に立つこと」を意味する名詞。

⇔ S do A harm「S は A の害になる」= S do harm to A = S harm A
Smoking does harm to your health. = Smoking harms your health.

(喫煙は健康に害を及ぼす。)

595-2 The use of chemicals in agriculture can do serious damage to the environment.

S do A damage「S は A に損害を与える」

= S do damage to A = S damage A

chemical「化学物質」

agriculture「農業」= farming

596 “Could you do me a favor?” “Of course, what can I do for you?”

S do A a favor「S は A の頼みを聞き入れる」

Could you do me a favor?

May I ask you a favor?「お願いがあるのですが。」

File 64 SVO, SVOO, SVOC の見分け方

① I found him easily. (私は彼を簡単に見つけた。)

→ easily は副詞なので修飾語(M)。SVO の第3文型。

② I found him a nice watch. (私は彼に良い腕時計を見つけた。)

→ him(O) + a nice watch(O)なので SVOO の文。

→ He is a nice watch.

③ I found him a nice person. (私は彼がよい人だとわかった。)

→ him(O) + a nice person(C)なので SVOC の文。

→ He is a nice person.

File 65 SVOC の形をとる動詞

make A B「A を B の状態にする」

get A B「A を B の状態にする」

paint A B「A を B に塗る」

- keep A B「A を B の状態に保つ」
- leave A B「A を B の状態にしておく」
- call A B「A を B と呼ぶ」
- name A B「A を B と名付ける」
- elect A B「A を B に選ぶ」
- think A B「A を B と思う」
- consider A B「A を B と思う」
- believe A B「A を B と信じる」
- find A B「A が B だとわかる」

make / get / paint / keep / leave / call / name / elect / think / consider / believe / find は、いずれも S+V+A(目的語)+B(補語)の形を取り、A と B が「=」の関係になる(A is B) ことを表す 第 5 文型(SVOC) の動詞である。ただし、B が表す内容(状態・結果・評価・呼称など)によって意味の焦点が異なる。

- make A B は「A を B の状態にする」で、強制・変化・結果のニュアンスが強い。*The news made her happy.* のように、外的要因によって状態が変わることを表す。
- get A B も「A を B の状態にする」だが、make よりも 過程・努力・達成の感じがある。*I got my room clean.* は、「(頑張って)きれいな状態にした」という語感になる。
- paint A B は「A を B に塗る」で、B には 色・外見の結果が来る。A の状態が視覚的に変化することを具体的に表す動詞である。
- keep A B は「A を B の状態に保つ」で、変化させるのではなく、維持するのがポイント。*Keep the door closed.* のように、継続状態を表す。
- leave A B は「A を B の状態にしておく」で、意図的にその状態のままにする／放置する語感がある。*He left the window open.* のように、結果状態が残る。
- call A B は「A を B と呼ぶ」で、呼称・言語上の名前を与える動詞。日常的・口語的で、一時的な呼び方にも使える。
- name A B は「A を B と名付ける」で、call よりも 正式・恒久的な命名を表す。人名・地名・船の名前などに用いられる。
- elect A B は「A を B に選ぶ」で、B には 役職・地位が来る。選挙や正式な選出を表し、結果としての地位に焦点がある。
- think A B は「A を B だと思う」で、話し手の主観的判断を表す。*I think him honest.* のように、やや文語的・形式的。
- consider A B も「A を B だと思う」だが、think よりも 客観的・慎重な評

価の語感をもつ。*She is considered intelligent.* のように、受動態でも頻出。

- believe A B は「A を B だと信じる」で、強い確信・信念を表す。事実・人格・価値判断に対する信頼を含む。
- find A B は「A が B だとわかる／気づく」で、発見・結果認識を表す。*I found the movie interesting.* のように、経験の結果としての判断になる。

597 My sister will graduate from college next year.

graduate from A「A を卒業する」

※ 自動詞なので直接に目的語(O)はとれない。対象を示すときは前置詞が必要。⇒ File66

598 I need to apologize to him for breaking my promise.

apologize (to A) for B (doing)「A に B のことで謝る」

※ 自動詞なので直接に目的語(O)はとれない。対象を示すときは前置詞が必要。

break one's promise「約束を破る」⇔ keep one's promise「約束を守る」

599 Let's discuss the effects (of) climate change on wildlife habitats.

599～606 などの動詞は他動詞なので直接に目的語(O)がくる。動詞の後に前置詞は不要。⇒ File67

discuss A「A について議論する」

the effect(s) (impact(s)) of A on B「A が B に与える影響」

wildlife「野生生物」

habitat「生息地」

600 Ms. Annan often mentions the importance of teamwork.

mention A「A について話す」

= refer to A

601 I am often told that I resemble my mother.

resemble A「A に似ている」= look like A = take after A

※ 状態動詞なので進行形にはしない。

602 Could you attend the meeting on Friday?

- attend A「A に出席する」
- Could you …?「…していただけますか。」

603 What time do you think you'll reach the café [cafe]?

- reach A「A に到着する」
- = arrive at A = get to A

File 67 自動詞と間違えやすい他動詞

- discuss a problem(問題について議論する) × discuss about a problem
- mention it(それについて話す) × mention about it
- resemble her(彼女に似ている) × resemble to her
- attend a meeting(会議に出席する) × attend at a meeting
- reach the station(駅に到着する) × reach to the station
- approach a town(町に近づく) × approach to a town
- enter a room(部屋に入る) × enter into a room
- obey an order(命令に従う) × obey to an order
- oppose a plan(計画に反対する) × oppose to a plan
- marry him(彼と結婚する) × marry with him

File 68 他動詞と間違えやすい自動詞

- agree with you(あなたに賛成する) × agree you
- object to a plan(計画に反対する) × object a plan
- graduate from college(大学を卒業する) × graduate college
- apologize to her for the delay
(彼女に遅くなったことを謝る) × apologize her the delay

604 A bus is approaching the bus stop.

- approach A「A に近づく」
- bus stop「バス停」

605 She opposed my proposal but suggested an alternative solution.

- oppose A「A に反対する」= object to A
- be opposed to A「A に反対している」= be against A ⇒ 935-1

- proposal「①提案」②「結婚の申し込み」
- alternative「代替りの」

606-1 “Will you marry me?” “I would love to marry you.”

- marry A「A と結婚する」= get married to A
- would love to do「喜んで～する」

606-2 She got married to a high school classmate.

- get married to A「A と結婚する」= marry A
- × get married with A は誤り。

606-3 My parents have been married for 20 years.

- be married (to A)「(A と)結婚している」
- ※ 現在完了形(状態の継続)の文。

marry の語法

marry は基本的に他動詞で、「marry A」の形を取り、「A と結婚する」という意味になる。この marry A は意味的に marry A ≡ get married to A の関係にあり、結婚という出来事・動作を表す表現である。Will you marry me? は Will you get married to me? と同じ内容を表す。

一方, marry には「結婚させる／嫁がせる」という使役的な意味もある。marry A to B は「A を B と結婚させる」という意味で、主語は本人ではなく、親・仲人・制度などの第三者になる。この用法では、A が自分の意思で結婚するというより、結婚が成立させられるという発想が前面に出る。

この marry A to B を受動態にすると A is married to B となるが、ここで注意が必要である。形の上では受動態であるものの、意味としては「A は B と結婚している」という状態を表し、「結婚させられている」という意味にはならない。したがって、be married to A は get married to A / marry A と内容的には同じ結婚関係を、状態の視点から述べた表現である。

整理すると、marry A は結婚するという動作、get married to A は結婚という出来事、be married to A は結婚している状態を表し、いずれも同じ結婚関係を異なる視点から述べている点を押さえることが重要である。

607 This job doesn't pay much, so I'm thinking of looking for another one.

- 607~610 などの動詞は自動詞として使うと意外な意味を持つ。
- ⇒ File68, p.254
- pay「賃金を払う」— 他動詞として使えば「～を支払う」の意味。
- be thinking of doing「～しようかと思っている」
- look for A「A を探す」

608-1 The hot weather will last until the end of September.

- last ①「続く」= continue
- ②「持ちこたえる」⇒ 608-2
- until the end of A「A の終わりまで」

608-2 My phone's battery doesn't last (for) more than a few hours these days.

- ※ この問題文の last は「持ちこたえる」の意味。⇒ 608-1
- more than ~ hours「～時間以上」
- these days「この頃」— 近過去・現在進行形・現在完了形と共に使う。

609 I need an onigiri — any kind will do.

- do「用が足りる」
- ※ この意味では will do の形で使うことが多い。any kind「どんな種類でも」
- get me A「(私のために)A を買って来る[持って来る, 手に入れる]」

610-1 Haruki Murakami's novels sell well worldwide.

- sell well「よく売れる」— 主語には「物」がくる。
- worldwide「世界中で, 全世界的に」= globally
- locally「地域的に, 地元で」
- ※ 継続的に売れている場合, 現在形の sell を使って「売れている」現在の状態を表す。

610-2 The new smartphones are selling poorly because they are expensive.

- sell poorly「売れ行きが悪い」= not sell well
- expensive「値段が高い, 高価な」⇔ cheap「安い」

611 I can't stand hot weather.

- 611~616 の動詞は意外な意味を持つ他動詞。⇒ File69

- can stand A「A を我慢できる, A に耐えられる」
 - can bear A = can endure A = can tolerate A = can put up with A
 - ※ 「耐える」の意味の stand は否定文や疑問文で使われることが多い。
 - ※ 自動詞では「(人が)立つ, (建物が)建っている」の意味。
-

612 My aunt runs a small restaurant in Nagano.

- run A「A(店・会社など)を経営する」
 - ※ 他動詞の run は「走る」という原義から、「経営する」という意味になる。
-

613-1 I miss my friend(s) in Japan terribly.

- miss A①「A がいなくて寂しく思う」②「A に乗り遅れる」③「A をし損なう」
 - terribly「ひどく」
-

613-2 I missed the train to school this morning.

- ※ この miss は「～に乗り遅れる」の意味。miss は元々「的に当たらない」を意味し、そこから上記の 3 つの意味が生じる。⇒ 613-1
-

613-3 Sara was so busy that she missed lunch.

- ※ この miss は「～をし損なう」の意味。⇒ 613-1
 - so + 形容詞[副詞] + that …「とても～なので…」⇒ 262
-

614 This library offers a wide variety of books to meet the needs of every reader.

- meet A「A(要求・必要)を満たす」= satisfy A
 - a wide variety of A「多種多様な A」
 - meet [satisfy] the needs of A「A の要求を満たす」
-

File 69 意外な意味を持つ他動詞

- stand A「A を我慢する, A に耐える」
- run A「A(店・会社など)を経営する」
- miss A①「A がいなくて寂しく思う」②「A に乗り遅れる」③「A をし損なう」
- book A「A を予約する」
- move A「A を感動させる」
- fire A「A を解雇する」
- dismiss A「A を解雇する」

- cover A①「A を覆う」②「A を扱う」③「A(距離)に行く」
- beat A「A に打ち勝つ」
- command a view of A「A を見渡す」

File 68 意外な意味を持つ自動詞

- pay「割に合う」
- last「続く, 持ちこたえる」
- hold「(重さなどに)耐える」
- work「うまくいく, 効く」
- do「用が足りる」
- read「(解釈で)なる」
- matter「重要である」
- count「重要である」
- sell「売れる」
- cut「切れる」

615 Sara and I play tennis every weekend, but she always beats me.

- beat A「A を打ち負かす」= defeat A

※ 活用は beat—beat—beaten

616 The tower commands a view of the entire city.

- command a view of A「(場所や建物が)A を見渡せる」— 人は主語にならない。

- entire「全体の」⇔ partial「部分的な」

617 The cat is lying under the table.

- 617～620 の動詞は意味がまぎらわしいので注意する。
- 自動詞 lie「横になる, 横たわる」の -ing 形 lying /laɪŋ/ ⇒ File70
- lie+C「C の状態で横たわる[置いてある]」⇒ 579

618-1 The mother gently laid the baby in the car seat.

- 他動詞 lay A「A を横たえる, A を置く」の過去形 laid /leɪd/ ⇒ File70
- car seat / child seat「チャイルドシート」

618-2 Chickens usually lay eggs every day.

- lay an egg「卵を産む」
- chicken は ①「ニワトリ」②「臆病」の意味。

619-1 Gas prices rose sharply last week.

- 自動詞 rise「上がる」の過去形 rose ⇒ File70
- gas prices / gasoline prices / petrol prices「ガソリン価格」
- rise sharply「急上昇する」⇔ fall sharply / drop sharply「急落する」

619-2 The cost of living has risen steadily over the past few years.

- 自動詞 rise「上がる」の過去分詞 risen /ˈrɪzən/ ⇒ File70
- the cost of living「生活費」
- steadily「着実に」
- over the past [last] few years「ここ数年にわたって」

620 Raise your hand if you have a question.

- 他動詞 raise A「A を上げる」⇒ File70
- ※ A にはいろいろな名詞がくる。⇒ File71

File 71 raise+O

- raise a child「子どもを育てる」= bring up a child
- raise salaries「給料を上げる」
- raise taxes「税金を上げる」
- raise prices「価格を上げる」
- raise fares「運賃を上げる」
- raise fees「料金を上げる, 会費を上げる」
- raise the rent「家賃を上げる」
- raise the level of A「A の水準を上げる」
- raise the issue of A「A の問題を提起する」

raise の語法

raise は「上げる」「育てる」を意味する 他動詞であり、共通するイメージは「人や物を意図的に上の状態へ引き上げる」ことである。自然に変化するのではなく、人の働きかけによって水準・数量・段階を高める点が重要である。

raise a child は「子どもを育てる」という意味で、親や保護者が責任をもって成長させる行為を表す。これは *bring up a child* と同じ意味で、日常的にもよく用いられる。一方、*raise salaries*, *raise taxes*, *raise prices*, *raise fares*, *raise fees*, *raise the rent* はいずれも「金額・数値・料金などを引き上げる」という用法で、制度・方針・決定などに基づいて数値を高くする場合に使われる。ここ

では raise = increase by decision という感覚をもつと理解しやすい。
 また、*raise the level of A* は「A の水準を上げる」を表し、能力・意識・品質・基準など、目に見えない抽象的な水準を高める場合にも raise が用いられる。さらに、*raise the issue of A* は「A という問題を提起する」という意味で、話題や論点を公の場に持ち出す、つまり「問題を表に出す」という比喩的な用法である。このように raise は常に目的語を取り、数量・水準・人・問題などを「意図的に上の段階へ動かす」動詞であり、「自然に上がる」場合には用いられない点に注意が必要である(その場合は rise を用いる)。

File 70 活用と意味がまぎらわしい自動詞と他動詞

	原形	過去形	過去分詞	-ing 形
自動詞	lie「横になる」	lie	lay	lain
他動詞	lay A「A を横たえる」	lay	laid	laid
自動詞	lie「うそをつく」	lie	lied	lied
自動詞	rise「上がる」	rise	rose	risen
他動詞	raise A「A を上げる」	raise	raised	raised
自動詞	arise「生じる」	arise	arose	arisen
他動詞	arouse A「A を呼び起こす」	arouse	aroused	aroused

lie(横になる)と lay(横にする)の違い

lie と lay は形がよく似ているため混同されやすいが、英語では自動詞か他動詞かという点で役割がはっきり分かれている。lie は「(自分が)横になる」「横たわっている」という意味の自動詞で、目的語を取らない。一方 lay は「(何かを)横にする」「置く」という意味の他動詞で、必ず目的語が必要になる。

lie は主語自身の状態を表し、*lie on the bed*「ベッドに横になる」や *lie on the floor*「床に横たわっている」のように使われる。このとき、動作は主語の中で完結しており、「何を横にするか」という対象は存在しない。

これに対して lay は、話し手や主語が別の物を横にする行為を表す。*lay a baby on the bed*「赤ちゃんをベッドに寝かせる」や *lay the book on the desk*「本を机に置く」のように、必ず「横にされる対象」が目的語として置かれる。ここでは「置く」「寝かせる」という能動的な働きかけが含まれている。

混乱の原因の一つは、lay が lie の過去形としても現れる点にある。*lie - lay - lain*(横になる)という活用と、*lay - laid - laid*(横にする)という活用が並行して存在するため、文中では形だけでなく目的語の有無を見て判断する必要がある。

621 Did she say anything to you about leaving the team?

- say A (to B)「B(人)に A と言う」
 - ▶ say と tell は他動詞。→ File72
 - say の目的語には「人」はこない。× Did she say you … は誤り。
 - leave a club / leave a team「クラブ／チームを去る、退部する」
-

622 The weather forecast says (that) it will be fine tomorrow.

- S say (that) …「S は…と言っている、S によれば…」
 - ▶ この問題文は無生物 (the weather forecast) が主語の無生物主語構文。
→ p.214
 - weather forecast「天気予報」
-

623 My teacher told me (that) I did well on the test.

- tell A (that) [wh-節] …「A(人)に…ということを話す[伝える、教える]」
 - tell の目的語には「人」がくる。× My teacher told that … は誤り。
 - do well「うまくやる」= succeed
-

624 Can you tell me about your dream job?

- tell A about B「B について A(人)に話す[教える]」
 - dream job「夢の仕事」
-

625 The woman told the boy to cut carrots.

- tell A to do「A(人)に～するように言う」
 - ask A to do「A(人)に～するように頼む」→ 514
-

626 We talked about gender equality in our class.

- talk about A = speak about A「A について話す」= discuss A
 - ▶ speak と talk は他動詞用法もあるが、基本的には自動詞。→ File73
 - gender equality「男女平等」
-

627 I talked her out of buying that expensive jacket.

- talk A out of doing「A(人)を説得して～することをやめさせる」
= persuade A not to do
-

File73 speak と talk の語法

speak…【基本は自動詞】

- speak「話す、演説をする」

- speak about A「A について話す」
- speak to [with] A「A(人)に話しかける、A(人)と話をする」

【他動詞】

- speak A「A(言語)を話す」

talk…【自動詞】

- talk「話す」= speak
- talk about A「A について話す」
- talk to [with] A「A(人)と話をする」

【他動詞】

- talk A into doing「A(人)を説得して～させる」
- talk A out of doing「A(人)を説得して～することをやめさせる」

File72 say と tell の語法

say…【他動詞】

- ※ 目的語に 人はこない
- say A (to B)「B(人)に A と言う」
- say (to B) (that) …「(B(人)に)…と言う, …と書いてある」

tell…【他動詞】

- ※ 目的語に 人がくる
- tell A B「A(人)に B を伝える」= tell B to A
- tell A (that) [wh-節] …「A(人)に…だと言う」
- tell A about B「B について A(人)に話す[教える]」
- tell A to do「A(人)に～するように言う」

speak/talk/say/tell の語法

- speaking と talking の語法
- speak と talk はどちらも「話す」と訳されるが、英語では話し手が「話す行為そのもの」に注目しているか、「人とのやり取り」に注目しているかで使い分けられる。speak は基本的に「声を出して言葉を発する行為」そのものを表し、演説・発表・説明など、やや形式的で一方向的な場面に用いられることが多い。一方 talk は「会話」や「言葉のやり取り」を表し、日常的で双方向的な場面に自然に使われる。
 - speak は自動詞として用いられ、*speak about A* は「A について話す」、*speak to[with]A* は「A(人)に話しかける/A と話す」を表す。to は一方

向, with は双方向のやり取りを意識させるが, 実際の用法では大きな差はない。また speak が他動詞になる場合, 目的語に直接取れるのは「言語」に限られ, *speak English* のように用いる。人を直接目的語にすることはできない。

- これに対して talk も自動詞で, 「話す」という意味では speak と共通するが, *talk about A* や *talk to[with]A* の形で, 人との会話や相談, 雑談などを表すのが基本である。さらに talk には他動詞用法があり, *talk A into doing* は「A(人)を説得して～させる」, *talk A out of doing* は「A(人)を説得して～するのをやめさせる」という意味になる。このような「言葉による説得」の用法は speak には見られない。

say と tell の語法

- say と tell はどちらも「言う」を表すが, 英語では注目点が異なる。say は「何と言ったか」, つまり発言内容そのものに焦点を当てる動詞であり, 目的語に人を直接取ることはできない。*say A (to B)* の形で「A という内容を(Bに)言う」, また *say (that) …* の形で「…と言う／…と書いてある」と表す。
- 一方 tell は「誰に伝えるか」, つまり相手に焦点を当てる動詞で, 目的語には必ず人が来る。*tell A B (= tell B to A)* は「A(人)にBを伝える」, *tell A (that) …* は「Aに…だと言う」, *tell A about B* は「BについてAに話す／教える」, *tell A to do* は「Aに～するように言う」を表す。命令や指示を表す場合は tell を用いるのが原則である。

まとめ

speak / talk は「話し方・やり取りの性質」の違い, say / tell は「内容重視か相手重視か」の違いで判断すると整理しやすい。

628 The girl is drawing a picture with colored pencils.

- draw A「(線で)A(絵・地図など)を描く」
- colored「色のついた」

629 The man is painting a picture in oils.

- paint A「(絵の具で)A(絵など)を描く」
- in oils「油絵の具で」

630 You can borrow up to ten books at a time from the library.

- borrow A「A を(無料で)借りる」
→「借りる」「貸す」の違い → File74
- at a time「一度に」

631 “Can I use your smartphone?” “Sure.”

- use A「A(電話・トイレなど)を(その場で)借りる」
- use a smartphone「携帯電話を使う[借りる]」

632 My brother rents [is renting] a room in Nerima-ku.

- rent A「A を(有料で)借りる[貸す]」
- rent a room「部屋を借りる[貸す]」

633 I forgot my wallet, so my friend lent me some money.

- lend A B「A(人)に B を貸す」= lend B to A
→ 活用:lend—lent—lent

File74 「借りる」「貸す」の使い分け

[借りる]

- borrow A「A を(無料で)借りる」
- use A「A(電話やトイレなど)を(その場で)借りる」

[借りる・貸す]

- rent A「A を(有料で)借りる[貸す]」

[貸す]

- lend A B「A(人)に B を貸す」= lend B to A

use・lend・rent・let の違い

日本語ではいずれも「借りる」「貸す」と訳されることが多いが、use / lend / rent / let は、英語では「何を問題にしているか」がそれぞれ異なる動詞である。ポイントは、実際に使う行為なのか、貸し借りなのか、金銭が関係するのか、許可を与えるのかという視点である。

- use…「借りる・貸す」そのものを表す語ではなく、物を実際に使う行為を表す動詞である。use a phone や use the restroom のように、短時間・その場限りの使用を表すのが典型で、日本語では「借りる」と言う場面でも、英語では borrow や rent ではなく use が自然になることが多い。May I use your pen? は「ペンを借りてもいいですか」に相当するが、ここで問題になっているのは所有や返却ではなく、「使うこと」そのものである。

- lend…「無料で貸す」ことを表す動詞で、親切や好意として一時的に物を貸す場合に用いられる。*lend A B (= lend B to A)*の形で、「A(人)にB(物)を貸す」と表し、金銭のやり取りはなく、必ず返却されることが前提となる。ペン・本・お金など、身近な物を一時的に貸す場合が代表例である。
- rent…「有料で貸す／借りる」を表す動詞で、金銭のやり取りが前提になる点 *lend* との大きな違いである。*rent a room* は「部屋を借りる」、*rent a room to someone* は「部屋を(人に)貸す」という意味になり、文脈によって「借りる」「貸す」の両方を表す。家・車・DVD など、一定期間使用し、その対価として料金を支払うものが典型で、契約や期間が意識される。
- let…「貸す」というよりも「使うことを許す」という意味合いが強い動詞である。*let A use B*「AにBを使わせる」や *let someone stay*「泊まらせる」のように、許可・容認に重点が置かれる。家や部屋について *let a house* のように使われることもあり、これは主にイギリス英語で「家を貸す(賃貸に出す)」という意味になるが、この場合でも核心は「使用を認める」という発想にある。

まとめ

use: 実際に使う(短時間・行為そのもの)

lend: 無料で一時的に貸す(返却前提)

rent: 有料で貸す／借りる(期間・契約・料金)

let: 使うことを許す(許可・容認)

634 These jeans don't suit me, do they?

□ suit A = look good on A「(服・色などが)A(人)に似合う」

→「似合う」「合う」の違い → File75

635 Do you think that blue bag would match this outfit?

□ match A = go with A「(服・色などが)A(物)に似合う」

○ outfit「服装」

636 I can't find a shirt in this color that fits me.

□ fit A「(サイズが)A(人・物)に合う」

→ that は主格の関係代名詞。先行詞は a shirt (in this color)。

File75 「似合う」「合う」の使い分け

[似合う]

人に似合う

- suit A
- look good on A「(服・色などが)A(人)に似合う」

物に似合う

- match A
- go with A「(服・色などが)A(物)に似合う」

「似合う」の表し方

日本語の「似合う」は一語で表されるが、英語では「人に合っているのか」「物同士が調和しているのか」という視点の違いによって動詞・表現を使い分ける必要がある。

まず 人に似合う 場合、suit と look good on が用いられる。suit A は「(服・色・髪型などが)A(人)に似合う」という意味で、主語は服や色、目的語が人になる点の特徴である。That jacket suits you. のように、「その服はあなたに合っている」という客観的・評価的な響きをもつ。一方 look good on A は「A(人)に似合っていて見える」という表現で、見た目の印象を強調するやや口語的な言い方である。Blue looks good on her. のように、実際にそう見えるという感覚を表す。

次に 物に似合う 場合には、match と go with を使う。match A は「(色・服・靴などが)A(物)と合っている」という意味で、色合い・デザイン・組み合わせの調和を表す比較的はっきりした表現である。This tie matches your suit. のように、二つの物の間にある調和関係を客観的に述べる。一方 go with A は「A と一緒に使うと合う」という意味で、組み合わせとして自然かどうかを表す、より会話的で柔らかい表現である。These shoes go with your dress. のように、全体としてのバランスに注目する。

このように、英語では「似合う」を人に合うか(suit / look good on)、物同士が調和しているか(match / go with)という二つの視点に分けて表現する。

[合う]

寸法が合う

- fit A「(サイズが)A(人・物)に合う」

体質に合う

- agree with A「(食べ物・気候などが)A(人)の体質に合う」

※ 否定文で使う。

「合う」の表し方

日本語の「合う」は意味の幅が広いが、英語では「何が・どの点で合っているのか」によって動詞を使い分ける必要がある。特に 寸法・サイズ と 体質・性質への相性では、まったく別の表現が用いられる。

まず 寸法が合う 場合には fit を使う。fit A は「(服・靴・帽子などのサイズが)A (人・物)に合う」という意味で、形や大きさが物理的に一致していることを表す。*This jacket fits me well.* のように、着用して問題がない、ちょうどよいという客観的な状態を述べる表現である。

次に 体質に合う／合わない 場合には agree with を用いる。agree with A は「(食べ物・飲み物・気候・薬などが)A(人)の体質に合う」という意味だが、実際の英語では 否定文で使われることが圧倒的に多い。*This food doesn't agree with me.* のように、「体に合わない」「調子が悪くなる」という意味で用いられるのが基本である。肯定文で使うことも可能だが、使用頻度は高くない。

この agree with は、単に体質だけでなく、性格・考え方・内容との相性 にも広く使われる。そのため、「彼の講義は私に合う」は

His lecture agrees with me.

と表すことができ、「内容・話し方・考え方が自分に合っている」という意味になる。この場合も、「自分の性質や好みに合致している」という感覚が中心である。

まとめ

- fit A: サイズ・寸法が A に合う(物理的)
- agree with A: 体質・性質・内容が A に合う(相性)
※ 食べ物・気候などでは否定文が多い
- His lecture agrees with me.
= 彼の講義は私に合う(内容・相性)

637 I doubt if [whether] we should go hiking today because it's going to rain.

- doubt if ...「…かどうか疑問に思う」
- doubt whether ...「…かどうか疑問に思う」

638 I doubt that Ken will arrive on time.

- doubt (that) ...「…であることを疑う, …ではないと思う」
- arrive on time「時間通りに到着する」

639 The police suspect they stole the jewels from the store.

- suspect (that) ...「…ではないかと疑う, …だと思う」
→ doubt (that) ...「…であることを疑う, …ではないと思う」との違いに注意。
- suspect A of B「B(罪など)について A(人)を疑う」→ 544
- the police「警察」[複数扱い]

doubt / suspect / think の語法

doubt / suspect / think はいずれも「思う・疑う」と訳されることがあるが、疑いの向き(肯定か否定か)と、取れる節の種類が大きく異なる。

think は最も中立的な動詞で、「～だと思う」という意見・判断を表す。think (that) S V の形を取り、話し手はその内容を 正しい可能性が高いものとして捉えている。*I think he is honest.* は肯定寄りの判断である。

suspect は「～ではないかと疑う」で、悪い内容・問題があることを前提にした疑いを表す。suspect (that) S V の形を取り、話し手はその内容を 本当かもしれないと強く疑っている。*I suspect he is lying.* は「うそをついているのではないか」という意味で、疑いの方向は肯定(～だ)である。

doubt は性質が異なり、「～とは思わない／～を信じていない」という意味をもつ。doubt (that) S V は「S が V だとは思わない」という意味で、話し手はその内容が本当である可能性を低く見積もっている。*I doubt he is honest.* は「彼が正直だとは思えない」という否定方向の疑いを表す。

さらに、この3語の中で if 節を取れるのは doubt だけという点である。doubt if S V は「S が V かどうか分からない／判断がつかない」という意味になり、内容の否定ではなく、判断保留を表す。

- doubt that S V
→ S が V だとは思わない(否定的判断)
- doubt if S V
→ S が V かどうか分からない(未確定)

例:

I doubt that he will come.

→ 彼は来ないと思う。

I doubt if he will come.

→ 彼が来るかどうか分からない。

さらに重要なのが、don't doubt that の用法である。

don't doubt that S V は、「S が V であることを疑っていない」という意味になり、結果として「S が V であると確信している」という 強い肯定を表す。

例:

I don't doubt that he is right.

→ 彼が正しいことは疑っていない(=彼は正しいと確信している)。

このように、doubt は否定と結びつくと意味が反転し、強い肯定になる点に注意が必要である。

640 They hope [wish] for a peaceful resolution to the conflict.

- hope for A「A を望む」
- wish for A「A を望む」
- hope to do「～することを望む」= wish to do → 486-1, 2
- hope for A to do「A(人)が～することを望む」= wish for A to do
- ※ hope for A to do は誤り。
- I hope for my sister to pass her driving test. → × hope A to do は誤り。
- (私は姉が運転免許試験に合格することを願っている。)
- peaceful resolution「平和的解決」
- conflict「紛争」

641 I hope that my sister passes her driving test this time.

- hope (that) …「…することを望む」= 直説法で使う。
- ※ hope to do や hope that は希望を表すが、未来のことでも現在形を使うのが一般的。
- 予測を表す will は不要。
- 例:I hope (that) it will rain. は一般に使わない。→ 84, 85

hope の語法

I hope that my sister passes her driving test this time.

- hope (that) …「…することを望む」= 直説法で用いる。
- ※ hope to do や hope that S V は「希望・願望」を表す表現であり、未来の内容であっても、that 節の動詞は現在形になるのが基本。
- これは、hope が「未来の出来事そのもの」を述べるのではなく、今この瞬間の話し手の気持ち(期待・願い)を述べる動詞だからである。
- そのため、未来を表す will(予測・意志)は原則として用いない。
- × *I hope (that) it will rain.*
- 「雨が降るだろう」という予測になってしまうため不自然。

【補足①:hope は「未来」ではなく「心情」を表す】

英語では、

- will:未来に起こると話し手が判断していること(予測・意思)
- hope:起こってほしいと話し手が願っていること(心情)

という役割の違いが明確に分けられている。

したがって、

- I hope she passes the test.

は「彼女が合格してほしいという私の願い」を表し、

- I think she will pass the test.

は「彼女は合格するだろうという私の判断・予測」を表す。

👉 hope の中では will を使うと意味がずれてしまう。

【補足解説②:現在形になる理由(時制の考え方)】

that 節の現在形は「未来の事実」を言っているのではなく、希望の内容をそのまま述べているだけである。つまり, my sister passes her driving test は「姉が運転免許試験に合格する」という 内容そのもの を示しており,それが今,話し手の希望として心にあることを表している。このため,英語では 時制の一致や未来表現を考える必要がない。

wish と hope の違い

wish と hope は、どちらも日本語では「～であってほしい」と訳されるため、日本人学習者にとって最も混乱しやすい動詞の一つである。しかし、英語ではこの 2 語は 感情の向き・現実との距離・文法構造のすべてが明確に異なる。

① hope: 現実に「つながっている」希望

□ hope (that) S V

□ hope to do

hope は、「そうなってほしい」という気持ちに加えて、現実的に見て、それが起こる可能性が十分にあると話し手が考えている場合に使う。つまり hope は、現実の延長線上にある期待を表す語である。

文法的特徴

- that 節は 直説法
- 内容が未来でも 現在形
- 仮定法は使わない

I hope that my sister passes her driving test.

→ 試験はこれからで、合格する可能性も十分にある。

→ 話し手は「期待」をもって結果を待っている。

② hope が現在形になる本当の理由

英語では、時制は出来事そのものではなく、話し手の捉え方を反映する。

hope の that 節の現在形は、「未来の出来事」を直接表しているのではない。

- 未来に起こる事実 → will / going to

<ul style="list-style-type: none">今、心の中にある期待 → 現在形 <p>つまり、my sister passes the test は「未来の事実」ではなく、希望の内容をそのまま言葉にしたものにすぎない。そのため、× <i>I hope it will rain.</i> は、「雨が降ると予測している」ように聞こえてしまい、不自然になる。</p>
<p>③ wish: 現実と「ずれている」願望</p> <p>□ wish + 仮定法</p> <p>一方 wish は、話し手が現実がそうではないと分かっているが、「そうであればよかったのに」と思っている気持ちを表す。つまり wish は、現実とのギャップを前提にした感情表現である。</p>
<p>④ wish が仮定法を取る理由</p> <p>仮定法は、「事実ではないこと」を言語的に示す仕組み。</p> <p>wish の後ろで仮定法が使われるのは、その内容が現実と一致していないことを明示するためである。</p>
<p>⑤ hope と wish を決定づける「判断基準」</p> <p>英語では、</p> <p>「未来かどうか」ではなく、</p> <p>話し手がその出来事をどう見ているかが動詞選択を決める。</p> <p>判断の軸は1つだけ</p> <p>👉 それは現実的に起こり得ると思っているか？</p> <ul style="list-style-type: none">YES → hopeNO (現実と違う／可能性が低い) → wish
<p>⑧ 日本語とのズレに注意</p> <p>日本語の「～だといいな」「～だったらいいのに」は、hope と wish を区別しない。</p> <p>英語では必ず、</p> <ul style="list-style-type: none">期待か後悔・非現実か <p>を判断する必要がある。</p>

642 We can help (to) reduce plastic waste by using a water bottle.

□ help (to) do「～するのに役立つ、～する助けとなる」

→ to 不定詞原形も原形不定詞も使われるが、原形不定詞を使うことのほうが

多い。

- reduce waste「ごみを減らす」
- water bottle「水筒」

643 Work experience helps students (to) think about their future careers.

- help A (to) do「A(人)が～するのに役立つ, A(人)が～する助けとなる」
→ to 不定詞原形／不定詞の両方可。
- work experience「職業体験」= intern「研修生」

644 Could you help us with this project?

- help A with B「A(人)の B(仕事・作業)を手伝う」
- project「企画・計画」

645 Please help yourself to some fruit from the bowl on the table.

- help oneself (to A)「(A を)自分で取って食べる[飲む]」
- fruit「果物」は食料としては不可算名詞。通常, 複数形にはしない。
相手に丁寧に勧める文では, 名詞に some(いくつか)を付けることが多い。

646-1 It seems that I've left my key in the classroom.

= I seem to have left my key in the classroom.

- It seems (that) …「…のように思える, …のようだ」
- It appears (that) …
- It seems to me (that) …「私には…のように見える」
- It seems clear (that) …「…というのは明らかかなようだ」

It seems (that) … や It appears (that) … は、「話し手の判断・印象」を控えめに述べる表現で、「…のようだ」「…と思われる」という意味を表す。ここでの It は形式主語であり、実際の内容は that 節に置かれている。主観的な断定を避け、状況から判断した結果を述べるときによく用いられる。

646-2 It appears that there has been a mistake.

= There seems to have been a mistake.

- It appears (that) …「…のように思われる」→ 646-1

It appears (that) … も意味・用法は seem とほぼ同じで、やや文章語的・客観的な響きをもつ。

647 It does not necessarily follow that you will be happy, even if you make a lot of money.

□ It does not follow that …「…ということにはならない」

○ A, followed by B「A の後に B が続く」

○ It follows that …「…ということになる」— It は形式主語, follow は自動詞。

It follows that … は「…ということになる」「…という結論になる」という意味で、前の内容から論理的に導かれる結果を表す表現である。ここでも It は形式主語で、follow は自動詞として用いられている。

これに対して It does not necessarily follow that …

は「必ずしも…ということにはならない」という意味で、前提条件があっても、そこから直ちにその結論が導かれるとは限らない、という慎重な判断を表す。

例文

It does not necessarily follow that you will be happy, even if you make a lot of money.

は、「たくさんお金を稼いだからといって、必ずしも幸せになるとは限らない」という意味になる。

なお、A, followed by B は「A の後に B が続く」という意味で、ここでは follow が他動詞的に分詞で使われている点に注意する。

648 I would appreciate it if you could email me the details.

□ I would appreciate it if S +(助動詞の過去形)…

「…していただけるとありがたいです[幸いです]」

※ if 節の S の後の動詞・助動詞は過去形にする。仮定法過去を使った丁寧表現。

なお、この構文では appreciate の目的語は it。

× *I would appreciate you if …* は誤り。

○ appreciate A「A(事・物)をありがたく思う」

○ email A B「B を A にメールで送る」

I would appreciate it if S +(助動詞の過去形)… は、「…していただけるとありがたいです」という意味の非常に丁寧な依頼表現である。この構文では、仮定法過去が用いられ、実際には相手にしてほしいことを、控えめ・婉曲に伝える役割を果たす。

I would appreciate it if you could email me the details.

では、if 節の could が過去形になっているが、これは過去の意味ではなく、丁寧さを出すための仮定法である。また、この構文では appreciate の目的語は常に it であり、× *I would appreciate you if …* のような形は誤りになる。

appreciate A は「A(事柄・行為)をありがたく思う」という意味で、人そのものを目的語に取らない点にも注意が必要である。

suggest / propose / demand / insist / require / order / recommend / advise などの動詞は、「提案・要求・命令・勧告」を表すため、後ろに that 節を取るとき、仮定法現在と呼ばれる特別な形を用いる。この場合、that 節中の動詞は主語や時制に関係なく原形になり、〈should + 原形〉を用いることもできる (should を使うのは主にイギリス英語)。that は省略可能であり、主節の動詞が過去形であっても、that 節の動詞は過去形にならない。

649-1 I suggested (that) they visit [should visit] Nara this weekend.

・提案・命令・要求を表す動詞に続く that 節中の動詞は、原形または

〈should + 原形〉になる(仮定法現在)。

・that は省略可。

・主節の動詞が過去形でも、that 節中は原形になる。

suggest (to A) that S (should) + 原形「S が…することを(A に)提案する」

propose (to A) that S (should) + 原形「(A に)提案する」

649-2 I proposed (that) we go [should go] home immediately.

propose (to A) that S (should) + 原形「S が…することを(A に)提案する」

→ 仮定法現在の文。that は省略可。

○ immediately「すぐに、ただちに」= right away = at once = instantly

650-1 His boss demands (that) everyone arrive [should arrive] at work before 8:30 a.m.

demand that S (should) + 原形

insist that S (should) + 原形

request that S (should) + 原形

「S が…することを要求する」→ 仮定法現在。should を使うのはイギリスの用法。that は省略可。

○ arrive at work「出勤する」

○ leave work「退勤する」

650-2 He insisted (that) he apologizes [should apologize] for his

rude behavior.

- insist that S (should) + 原形「S が…することを要求する」
→ 仮定法現在の文。
 - should を使うのはイギリスの用法。that は省略可。→ 650-1
 - apologize (to A) for B「A(人)に B のことを謝る」
 - rude behavior「失礼な振る舞い」
-

651 School rules require that all students wear uniforms.

= School rules require all students to wear uniforms.

- require that S (should) + 原形「S が…する必要とする」
→ 仮定法現在。should を使うのはイギリスの用法。that は省略可。
 - require A to do「A に～することを要求する」→ 517
 - school rules「校則, 学校の規則」= school regulations
-

652 The coach ordered that everyone gather for practice in the morning.

= The coach ordered everyone to gather for practice in the morning.

- order that S (should) + 原形
 - command that S (should) + 原形
「S が…するように命令する」
→ 仮定法現在の文。that 節の動詞は原形。that は省略可。
× *that everyone gathered [gathers] …* とはならない。
 - order A to do「A に～するように命じる」= command A to do → 513
 - gather「集まる」⇔ scatter「散り散りになる, ~をまき散らす」
-

653-1 The doctor recommends that I drink more water.

- recommend that S (should) + 原形
 - advise that S (should) + 原形
「S が…するように勧める」
→ 仮定法現在の文。→ should を使うのはイギリスの用法。that は省略可。
※ アメリカでは可だが, イギリスでは The doctor recommends me to drink more water. の形も使われる。
-

653-2 My teacher advised that we review our notebooks before the exam.

= My teacher advised us to review our notebooks before the exam.

□ advise that S (should) + 原形「S が…するように勧める」

→ 仮定法現在の文。→ should を使うのはイギリスの用法。that は省略可。

× *that we reviewed* … とはならない。→ 653-1

□ advise A to do「A に～するように助言する[忠告する]」→ 512

○ review「～を見直す, ～を復習する」

注意する形

that S be ~ / 過去形でも that S 原形 / that S not be ~

提案・要求・命令・勧告を表す動詞に続く that 節では、通常の時制の考え方が通用せず、仮定法現在と呼ばれる特別な形が用いられる。このとき、学習者が特に注意すべきポイントが三つある。

まず一つ目は、be 動詞が必ず be の原形になるという点である。主語が単数であっても三単現の is にはならず、過去形 was / were にもならない。

たとえば *The teacher demanded that he be on time.* のように、that S be ~ の形を取る。ここで is や was を使うことはできない。これは「事実」を述べているのではなく、「そうすべきだ」「そうであることを求める」という 要求・指示の内容を表しているためである。

二つ目は、主節の動詞が過去形でも、that 節では原形が使われるという点である。

He insisted that she apologize のように、主節が *insisted*(過去形)であっても、that 節の動詞は *apologize* の原形になる。これは、that 節が「過去の出来事」を表しているのではなく、その時点での要求・主張の内容を示しているため、時制の一致は起こらない。したがって、× *that she apologized* のような形は誤りとなる。

三つ目は、否定形の作り方である。仮定法現在の that 節では、否定は that S not 原形、be 動詞の場合は that S not be ~ の形になる。

たとえば *The doctor advised that he not be late.* のように、do not や does not は使わず、not を動詞の前に直接置くのが特徴である。この形は命令文に近い感覚で、「～しないように」という意味を表す。

まとめ(テキスト用整理)

- that S be ~ : be 動詞でも必ず原形
- 主節が過去形でも that 節は原形: 時制の一致は起こらない
- that S not be ~ / that S not 原形: 否定は not を直接置く